

未来へ向けたデジタル診療情報の 利活用を考える

我が国の医療は、右肩上がりの成長経済を背景に、十分な財源と質の高い医療従事者の養成により、WHO の評価でも世界最高水準にあるとされてきました。しかし近年では、産科小児科や救急医療問題など医療崩壊と呼ばれる課題も明らかになり、豊富に蓄積されつつあるにもかかわらず上手く使われていないデジタル診療情報（クリニカルデータ）を活用することで、医療の効率化や安全性の向上、エビデンスに基づいた研究開発や医療政策決定への応用などが期待されています。

本シンポジウムでは、大阪大学と合同し、個人情報保護した上でのクリニカルデータの利活用について、欧米や我が国の最先端の研究者や各界の方々の英知を踏まえ、各界の識者の方々に議論していただくことと致しました。医療界に限らず、幅広い分野の方々のご参加をお待ちしております。

【日時】 2010年3月5日（金）10時00分～18時30分（受付9：30～）

【場所】 東京大学 医学部教育研究棟 14F 鉄門記念講堂

【主催】 東京大学政策ビジョン研究センター

【後援】 日本医療情報学会

【支援】 経済産業省

【定員】 250名程度

※入場無料・事前申込制

※日英同時通訳付

プログラム

プレセッション 「わが国におけるクリニカルデータ利活用の現状」

シンポジウム

13:00- オープニング 松本洋一郎 東京大学理事・副学長

13:25- セッション1：クリニカルデータの知の構造化の実例

康永秀生 特任准教授（東京大学）

Azeem Majeed 教授（Imperial College London, UK）

伊藤孝行 准教授（名古屋工業大学）

野村泰伸 教授（大阪大学）

15:30- セッション2：クリニカルデータの高度利用に必要な「社会システム」

John D. Halamka 教授（Beth Israel Deaconess and Harvard Medical School）

Nikolaus Forgó 教授（the University of Hanover）

秋山昌範 教授（東京大学）

17:15- パネルディスカッション

秋山昌範 教授（座長）、John D. Halamka 教授、Azeem Majeed 教授、

Nikolaus Forgó 教授、古川俊治 教授（慶應義塾大学 / 参議院議員）

18:00- セッションの総括と提言 秋山昌範 教授（東京大学）

18:15- クロージング 森田朗 教授（東京大学）

18:45- 懇親会（13階 カポベリカーノ）

2010/3/5 10:00-18:30